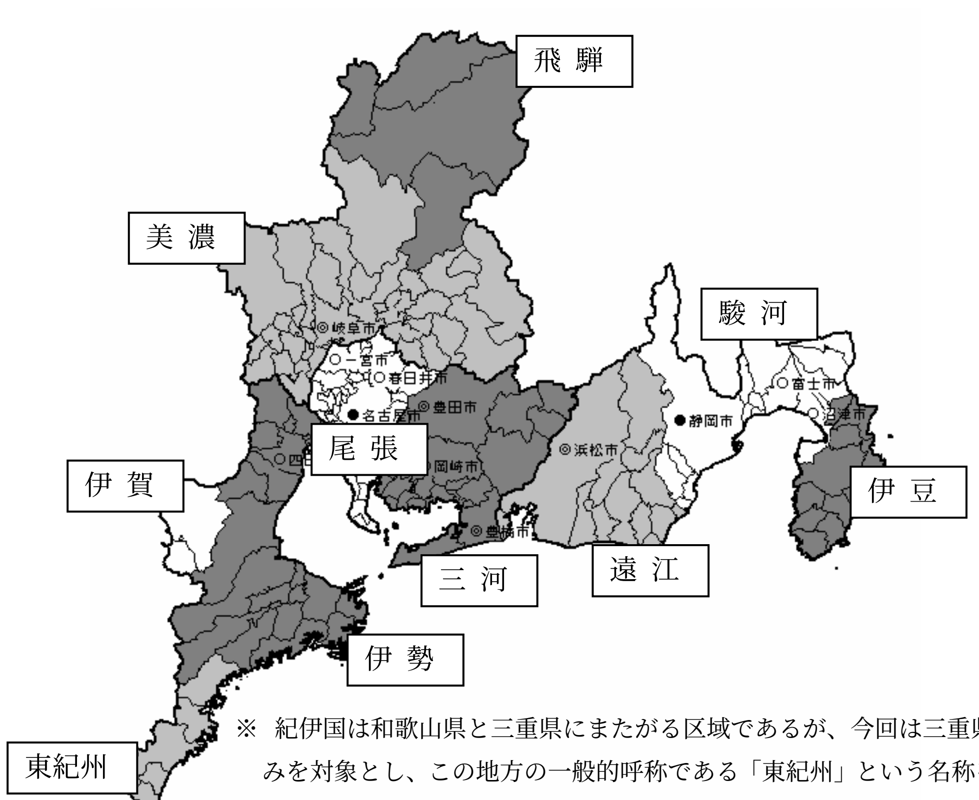
２　「旧の国」のまとまりについて（骨子）

Ⅰ　旧の国について

旧の国は、大化の改新に端を発する地方行政区画で、５畿７道６６国と言われる。
戦国時代を経て、地方行政区画ではなくなったが、**明治時代に廃藩置県が完成するまで、長く地理的区分としての影響力を保っていた。**

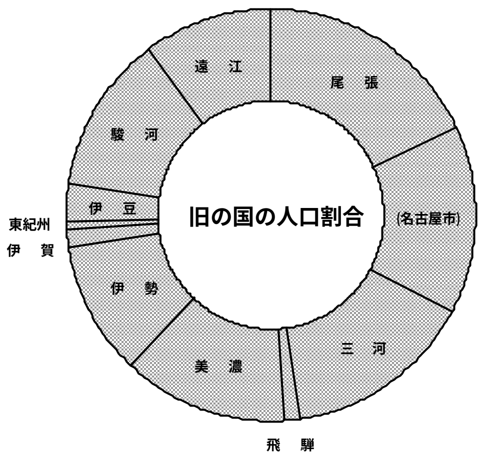
Ⅱ　東海４県における旧の国の概要

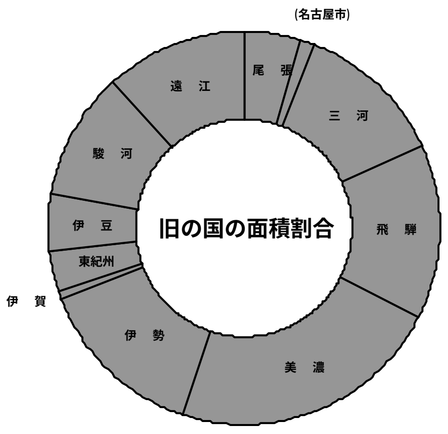
「分権時代における県の在り方検討委員会」報告書において、**統計データ分析（クラスター分析）を行った結果比較的まとまりが強いとされた東海４県を対象**に調査。



※　紀伊国は和歌山県と三重県にまたがる区域であるが、今回は三重県内の区域のみを対象とし、この地方の一般的呼称である「東紀州」という名称を使った。また、志摩国は８世紀頃に伊勢国から分離したが、ここでは伊勢国に含めている。

１　旧の国の規模等

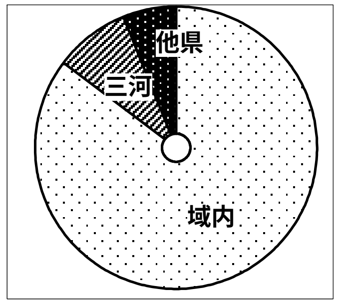




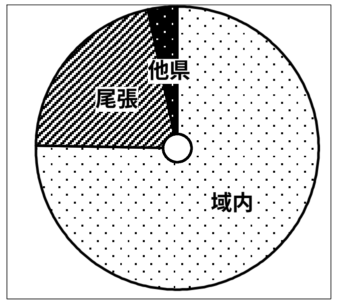
２　旧の国のまとまり

○統計データによれば、**１０地域のうち域内への通勤・通学が７割以上となっているのは７地域で、旧の国単位でのまとまりが見られる。**７割未満の伊豆は駿河地域、伊賀は関西方面、東紀州は和歌山県への通勤・通学が多い。

（尾　張）



（三　河）



○新聞の地方版、気象台の予報区域にも、旧の国名が一部使われるなどの影響が残っている。
○市町村を束ねる広域行政圏や県の地方事務所の管轄は、静岡県の一部を除いて、いずれも旧の国境を越えない。

Ⅲ　まとめ

旧の国は、現在の住民生活の中でも意味を持つまとまりであって、歴史的経緯に根ざした日常生活圏が形成されていると推測され、現在の都道府県よりも**広域を所管する道州の権限を、住民により近い単位に分権するための有力な候補**である。
また、４県内の旧の国は、一部を除き中位程度かそれ以上の**都道府県に匹敵する経済規模を有しており、自立の可能な単位でもある**と考えられる。

【旧の国の経済規模（域内総生産額）と人口規模】

尾　　張 （うち名古屋市）	２１兆２，９４０億円 （１１兆７，６７７億円）	5位相当 （11位相当）	４，８４５，６８９人 （２，１７１，５５７人）
三　　河	１２兆１，１９８億円	11位相当	２，１９７，６１１人
飛　　騨	６，１７３億円	最少県以下	１５７，５８５人
美　　濃	６兆５，０６２億円	23位相当	１，９３８，００３人
伊　　勢	６兆０，７０５億円	23位相当	１，５８１，９８２人
伊　　賀	６，４１０億円	最少県以下	１８４，８１８人
東　紀　州	２，４８５億円	最少県以下	９０，５３９人
東部 （伊豆）	４兆８，２２９億円 （　　－　　）	27位相当 （　－　）	１，２３５，４３３人 （４３４，８２６人）
中部 （駿河）	４兆８，０８８億円 （　　－　　）	27位相当 （　－　）	１，２２１，９８１人 （１，８３１，０５４人）
西部 （遠江）	６兆１，２２６億円 （　　－　　）	23位相当 （　－　）	１，３０９，９７９人 （１，５０１，５１３人）

※　静岡県の（　）外は、東部、中部、西部（旧の国とは一致しない）のデータ。